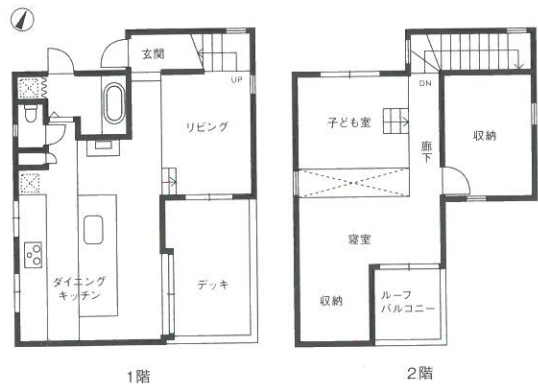




「Hの天板は冷たいので、パン生地をこねる作業台として使うこともあります」と奥さま。



デッキと連続するダイニングは開放感にあふれ、屋外への眺めも楽しめる心地良い空間。



1階

2階

Tetsuo Maeda

前田哲郎 1977年 神奈川県生まれ。独学で建築を学び、2009年 株式会社前田工務店を設立。設計から施工までを手掛ける。神奈川県を中心に活動中。



株式会社前田工務店

神奈川県海老名市杉久保北1-11 金子工場2階
TEL 046-206-4722
FAX 046-206-4755
info@maedakoumuten.jp
maedakoumuten.jp

Chihiro Mihara

三原ちひろ 1978年 東京生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業後、建築、デザインを中心に活動後、2014年前田工務店へ入社。



KITCHEN & BATH IDEAS
つながる家 (神奈川県海老名市)

づらかったんです。作業スペースが狭くて、食器や鍋の置き場もなく、その悩みをすべて解消したいと思い、キッチンは絶対にオリジナルにしようと思ったんです」（奥さま）
東側にはデッキを連続させ、窓を開け放せばアウトドア気分も満喫できる。夏のホームパーティーでは、室内外を自由に出入りしながらバーベキューを楽しむそうだ。
空間全体のイメージは、ブルックリンスタイルを希望。壁はサブウェイ風タイルを使い、アイランドとカウンターの天板は古材を用いて、自好みのインテリアに仕立てた。
「空間のメインであるキッチンゆえに、デザインも重要だと考えました」と語るのは、設計を担当した前田哲郎さん。収納の扉にモールドディングを施したり、テーブルはろくろの脚にするなど、上質な家具のように見える工夫を施した。

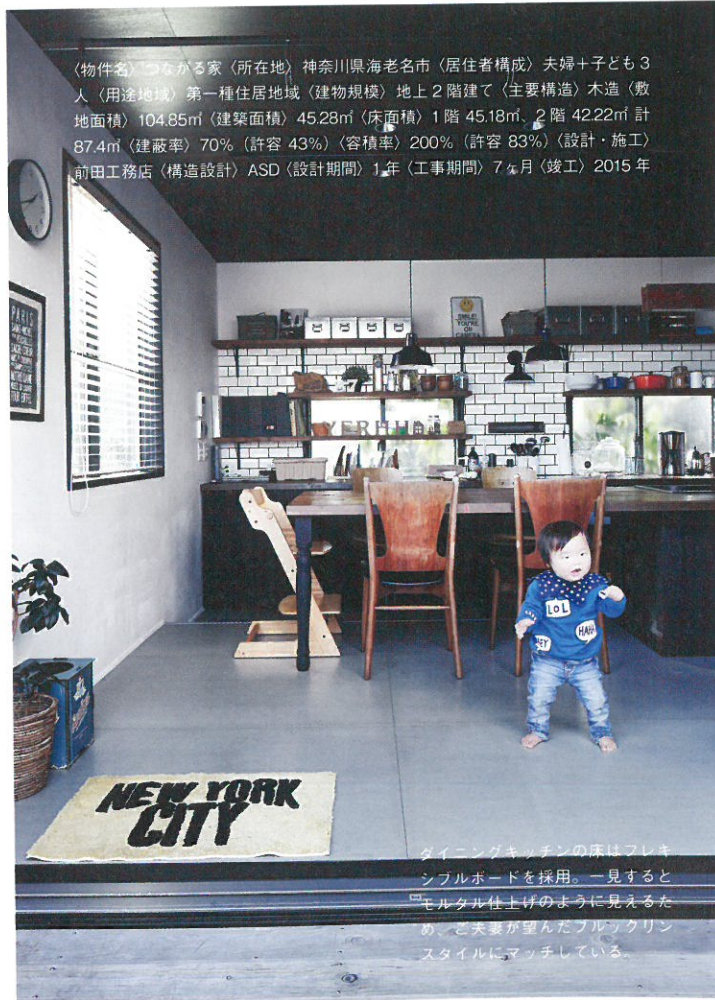


浴室は在来工法で作り、窓を設けて風通しの良さに配慮。

キッチンの上部は一部を吹き抜けにして、2階の子ども室とのつながりを確保。キッチンにしながら子どもたちの気配が分かり、子どもたちも階下の両親をいつも身近に感じられる環境に整えた。
家の中心がキッチンになったことで、家族は自然とキッチンに集まるようになり、幼い長女も「お手伝いしたい」と一緒に立つことが増えたそう。ピザやパンの生地をこねたり、サラダをつくったり……。親子で料理をする楽しみが、日常のひとつに加わった。



上・II列型キッチンは調理から盛り付け、配膳までの動作がスムーズ。下・階段はリビングの横に設けて、縦横につながるプランを採用した。



〈物件名〉つながる家〈所在地〉神奈川県海老名市〈居住者構成〉夫婦+子ども3人〈用途地域〉第一種住居地域〈建物規模〉地上2階建て〈主要構造〉木造〈敷地面積〉104.85㎡〈建築面積〉45.28㎡〈床面積〉1階45.18㎡、2階42.22㎡計87.4㎡〈建蔽率〉70%〈許容43%〉〈容積率〉200%〈許容83%〉〈設計・施工〉前田工務店〈構造設計〉ASD〈設計期間〉1年〈工事期間〉7ヶ月〈竣工〉2015年

ダイニングキッチンの床はフレキシブルボードを採用。一見するとモルタル仕上げのように見えるため、奥さまが愛したブルックリンスタイルにマッチしている。



子ども室の床は人工芝。肌触りを子どもに確かめてもらい、足裏に優しいタイプを採用。吹き抜けには転落防止用のネットを張ってハンモックのように使っている。



「余計な間仕切りは要らない」という要望を受け、前田さんはスキップフロアを提案。段差で緩やかにゾーニングするプランは、実面積以上の広がりを感じられる。